論文要旨説明書

報告論文のタイトル：「競争政策・消費者政策のためのミクロ経済学」への一試論－不完全競争への市場支配度指数アプローチ－

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：丹下　一尚　　**所属**：公正取引委員会事務総局中部事務所（名古屋大学経済学研究科（院生））

共著者１氏名：安達　貴教　　**所属**：名古屋大学経済学研究科准教授
共著者２氏名：　　**所属**：

論文要旨（800 字から 1200 字、英文の場合は 300 から 450 語）

多くのミクロ経済学の教科書においては、完全競争に関する説明の後、「市場の失敗」の一例として「独占」が取り上げられるが、より現実的な不完全競争については、多くの経済学研究者はゲーム理論の導入が必須と考えているため、部分均衡の枠組みを前提とした場合における不完全競争の意味付けや帰結が、経済学の入門段階で十分に理解されないという現状が生じている。その結果として、競争政策が判断される際、経済学の枠組みが現実的な状況に即する形で役立てられていないという結果が生じているなどと危惧される。

このような実情に鑑み、我々は、経済学の入門段階から早々と不完全競争を導入するための教育的フレームワーク、即ち、我々が呼ぶところの「**市場支配度指数アプローチ**」（Conduct Index Approach あるいは Market Power Index Approach）を提示することで、完全競争をベースにするのではなく、不完全競争を前提とし、完全競争と独占は、不完全競争のそれぞれ両極端という特殊ケースとして包含することで分析を展開できることを主張する。即ち、より良い見通しを初学者に与えるべく、「あらゆる状況に適用できるたった一つの不完全競争モデル、あるいは一つの不完全競争のフレームワークに基づき、状況に応じて、そのヴァリエーションを考えれば良い」との考え方を提示したい。また同時にそのことにより、競争政策や消費者政策の経済理論的な基礎付けを簡明に与えることを企図し、今後、法廷も含んだ多様な公共空間におけるエヴィデンス提示やディスカッション等にも活かされるよう、それに資する概念的な全体像を与えんとすることも目論んでいる。

また、本稿では、需要曲線や限界費用曲線などのミクロ経済学の初歩的な概念については前提として議論を進めるが、「ナッシュ均衡」等、ゲーム理論の用語が登場するが、それらを既知としていなくても、本稿の内容理解には差し支えない。むしろ、「ゲーム理論を前提とせずに不完全競争がどのように理解されるか」という概念的把握の仕方に焦点を当てるものとする。

以下、本稿の構成は以下の通りである。まず次節において、「市場支配度指数アプローチ」に基づく不完全競争の導入法について解説する。続く第 3 節においては、市場支配度指数の基礎付けを考えた後で、幾つかの発展的な概念に触れる。更に第 4 節においては、独禁法学との関連や数値例について紹介する。そして第 5 節において、「市場支配度指数アプローチ」によって競争政策を考えるための応用例として、「企業結合」（水平的合併）を取り上げる。また、第 6 節では、消費者政策とより深く関わる「限定合理性」及び「情報の非対称性」を「市場支配度指数アプローチ」の枠組みにおいて把握する。最終の第 7 節は結語である。